

心と体のメンテナンス

9月のトピック ◆ 慢性痛の治療動向



林美香先生

足病形成外科・足病一般専門医師。ニューヨーク足病医科大学卒業後、聖ビンセント病院足病外科・医科研修修了。スポーツに伴うけが、外反母趾、ねんざ・骨折、かかとの痛み、痛風・関節炎、爪水虫など、足に関する悩みやケガ、病気を手掛ける。

自己多血小板血漿（PRP）療法

Q 自己多血小板血漿（PRP）療法とは？

A 慢性痛治療の最近の傾向として、慢性化した患部を急性の状態に戻すことにより、自己治療力を再活性化する「切開しない手術が高い効果を出している」とは、前回お話ししました。血小板再生治療とも呼ばれるPRP（Platelet-Rich Plasma）療法は、その中でも新しいアプローチの一つで、患者さん本人の血液を使います。

日本では、顔のしわを目立たなくするなど、美容整

形分野での利用がよく知られていますが、アメリカではプロスポーツ選手を中心に、けがの治療に使われ始め、この1年ほどで一般の人の間でも注目されるようになりまし。

Q PRP療法の仕組みを教えてください。

A PRPは血小板を濃縮したもので、新しい組織や細胞の成長を促す「栄養素」が豊富に含まれています。治療ではまず、患者さんの腕から採血し、それを専用の遠心分離機にかけてPRPを抽出

します。次に、患部、例えば損傷した腱や靭帯（じんたい）に局部麻酔を行い、PRPを注射針で注入します。その際、針の先で患部にくつもの小さい穴を開け、「新しいけがを作ります」。

この「新しいけが」により、治療（修復）することを忘れて慢性化した患部を急性の状態に戻してやり、体に炎症を起こさせます。炎症は、治療の最初のステップです。炎症が起きた後は、栄養を豊富に含んだPRPが傷ついた腱や靭帯の再生を促します。血小板はもともと体内にある成分ですが、高濃度の血小板、つまりPRPを注射で足してやることで、治療を加速することができま。

Q 米食品医薬品局（FDA）は、リハビリなど、非外科的治療を半年以上行っても効果がなかった慢性アキレス腱炎、足底腱膜炎、テニスひざなどへのPRP療法を認めています。

Q 何ですか？

A これまでの研究では、慢性痛が80〜85%緩和したことが報告されています。痛みが完全に無くなった例もあります。効果は基本的に持続し、再発の心配はありません。

回復時間は大幅に短縮されます。個人差はありますが、患部をメスで開く手術の場合、6〜9カ月を要するところを、PRP療法の場合、切開しないこと、PRPが治療を加速することから、6〜8週間程度です。

本人の血液を使うため、アレルギー反応や感染といった副作用もありません。糖尿病や心疾患患者、高齢者など、切開を伴う手術にリスクがある人にとってもPRP療法は明報です。

Q 治療後に気をつけることはありますか？

A PRP療法は、急性の「炎症を起こす」ことで自然治療を促すので、「炎症を抑える抗炎症剤や患部冷却は逆効果です。ステロイド注射などで炎症を抑える従来の慢性痛治療に対する考え方は、原理が180度違います。

※次回は「ラジオ波焼灼手術」についてです。

INFORMATION

Mika Hayashi, DPM, PC
211 E. 43rd St., Suite 610
(bet. 2nd & 3rd Aves.)
TEL: 212-682-0043
www.mikahayashi.com